

令和2年度
決算説明資料

令和3年10月7日

交 通 局

目 次

頁

1	バス停留所の広告付き上屋	1
2	大型第二種免許未取得者を対象としたバス運転士の採用	3
3	バス運転士の応募状況	4
4	バスの有責事故件数の推移	5
5	バスの運行ミス件数の推移	6
6	バスの道路交通法違反件数の推移	7
7	可動式ホーム柵の設置	8
8	愛知県からの高速度鉄道事業補助金	9
9	駅構内における店舗数の推移	10
10	運輸収益の減少に対する財源確保の取組	11
11	新型コロナウイルス感染症の影響による経営状況を踏まえた課題の認識	13

1 バス停留所の広告付き上屋

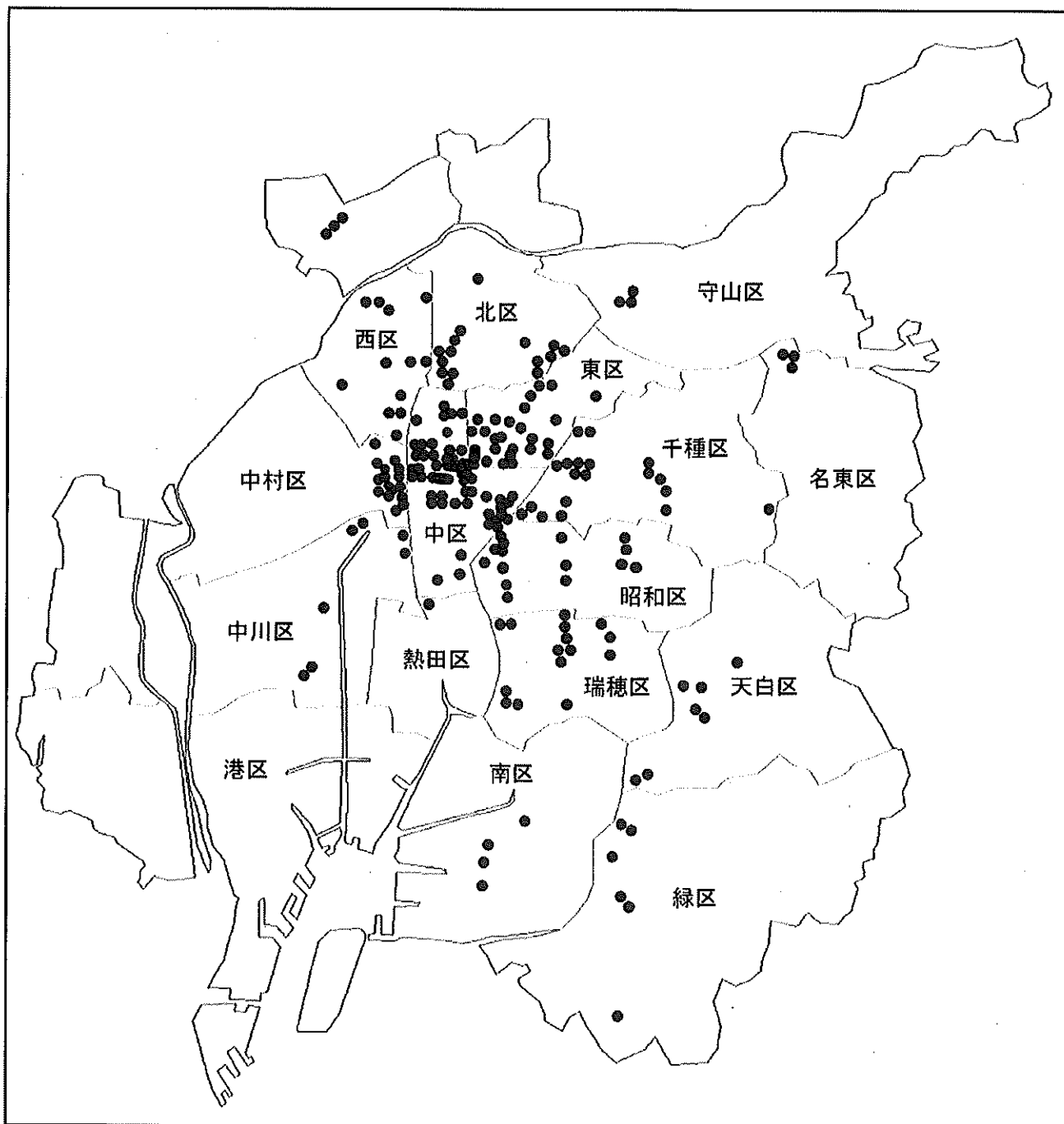
(1) 区別箇所数

(単位 箇所)

区 分	バス停留所	うち上屋設置箇所	
			広告付き上屋
千種区	258	125	19
東区	148	86	27
北区	240	71	15
西区	249	90	15
中村区	252	92	16
中区	194	108	61
昭和区	164	83	15
瑞穂区	155	73	15
熱田区	117	49	1
中川区	415	132	7
港区	322	130	0
南区	202	91	4
守山区	263	79	3
緑区	384	118	6
名東区	201	75	3
天白区	253	90	7
市外	59	6	0
計	3,876	1,498	214

(注) 箇所数は、令和3年3月31日現在のものです。

(2) 広告付き上屋市内分布図



(注) 分布図は、令和3年3月31日現在のものです。

2 大型第二種免許未取得者を対象としたバス運転士の採用

(1) 募集概要

区 分	内 容
採用予定数	5名
採用予定時期	令和3年10月以降
主な受験資格	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和55年4月2日以降生まれ ・申込日現在、大型第二種免許の受験資格があること
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次選考の合格発表後から第三次選考初日の前日までに大型第二種免許を取得すること ・採用者には、大型第二種免許取得費用の助成あり

(2) 選考スケジュール

区 分	内 容
令和2年 8月14日～15日	採用選考説明会
9月 1日～18日	応募期間
10月17日	第一次選考(筆記試験及び適性検査)
10月29日	第一次選考合格発表
11月13日	第二次選考(面接試験及び身体検査)
令和3年 1月15日	第二次選考合格発表

(注) 令和3年度に第三次選考(実技試験)を実施し、合格者を採用します。

3 バス運転士の応募状況

(1) 大型第二種免許未取得者対象

(単位 人)

区 分	2 年 度
募集人数	5
応募人数	45
男 性	45
女 性	0

(2) 大型第二種免許所有者対象

(単位 人)

区 分	元 年 度	2 年 度
募集人数	20	45
応募人数	126	126
男 性	123	124
女 性	3	2

4 バスの有責事故件数の推移

(単位 件)

区 分	元年度	2年度
対車両事故	164	150
車内事故	126	105
歩行者等との事故	17	17
構造物等との事故	114	119
そ の 他	58	50
計	479	441

(注) その他は、バス車両の原因不明の傷や水はねを生じたものなどです。

5 バスの運行ミス件数の推移

(単位 件)

区 分	元年度	2年度
路線誤り	220	214
ダイヤ誤り	68	68
バス停通過	138	120
行先表示誤り	9	3
計	435	405

6 バスの道路交通法違反件数の推移

(単位 件)

区 分	元年度	2年度
信号無視 (赤色等)	2	11
横断歩行者等 妨害等	0	5
指定通行 区分違反	0	3
指定場所 一時不停止	1	0
計	3	19

7 可動式ホーム柵の設置

(1) 整備概要

区 分	桜通線	東山線	名城線・名港線
対象駅数（駅）	17	22	34
整備概要	可動式ホーム柵の設置等	可動式ホーム柵の設置及び車両改造等	
可動式ホーム柵稼働開始時期	平成23年1月 ～ 平成23年7月	平成27年9月 ～ 平成28年2月	令和2年5月 ～ 令和3年3月
全体整備費 (百万円・税込)	1,239	18,737	11,126

(注) 1 桜通線は、平成6年2月のワンマン運転開始にあわせて車両改造を実施し、ATO（自動列車運転装置）を整備済です。

2 桜通線の鳴子北駅から徳重駅の4駅は、平成23年3月の開業にあわせて整備しているため表には含みません。

(2) 稼働開始前後の転落件数

(単位 件)

区 分	桜通線	東山線	名城線・名港線
稼働開始前	7	14	16
稼働開始後	0	0	0

(注) 稼働開始前は、各線において、可動式ホーム柵が稼働開始する直前の年度における転落件数を示します。

8 愛知県からの高速度鉄道事業補助金

(1) 補助金額の推移

(単位 百万円・税込)

区 分	補助金額	補助対象事業
平成 7年度	1, 200	新線建設
12年度	588	同上
17年度	448	同上
22年度	223	同上
27年度	30	平成24年度から 東山線可動式ホーム柵
令和 2年度	30	平成28年度から 名城線・名港線可動式ホーム柵

(2) 令和2年度名城線・名港線可動式ホーム柵の整備における要望額

(単位 百万円・税込)

事業費		5, 490
財 源 内 訳	国庫補助金	779
	一般会計補助金	866
	一般会計出資金	1, 098
	交通局負担分	2, 747

県補助金要望額	1, 110
---------	--------

(注) 県補助金要望額は、交通局負担分×40.4% (市民を除く県民利用者の割合) です。

(3) 地下鉄利用者における居住地別の割合

(単位 %)

名古屋市民	48.6
愛知県民 (名古屋市民除く)	40.4
県外	11.0
計	100.0

(注) 平成27年度大都市交通センサスに基づき算出した割合です。

9 駅構内における店舗数の推移

業 種	元年度	2年度
コンビニエンスストア	25	25
調剤薬局・ドラッグストア	5	5
飲食・食物販	11	12
その他物販・サービス	9	9
計	50	51

(注) 店舗数は、各年度末のものであります。

10 運輸収益の減少に対する財源確保の取組

(1) バス

ア 事項名

地域巡回路線等維持補助金の増額

イ 概要

生活路線を始めとした不採算路線に対する補助です。運輸収益の減少により収支差が拡大することから、一般会計からの補助金が増額しました。

ウ 補助金算定方法

路線ごとに算定した経常収支差額相当額について、地域巡回路線は全額、その他不採算路線は2分の1を補助金として算定し、黒字路線については経常収支差額相当額の4分の1を補助金から減額して算定しています。

エ 補助金額等の推移

(単位 百万円・税込)

区 分	運 輸 収 益	地域巡回路線等 維持補助金
当初予算額 (A)	18,691	2,404
補正予算額 (B)	△ 4,751	2,248
予算額合計 (A+B)	13,940	4,652
決 算 額	13,644	4,652

(2) 地下鉄

ア 事項名

高速度鉄道事業特別減収対策企業債の発行

イ 概要

新型コロナウイルス感染症の影響により拡大する資金不足額について資金手当に係る企業債を160億円発行しました。

ウ 借入条件

- ・利率 0.01%
(償還利子の1/2の額を一般会計から補助)
- ・借入先 市場公募
- ・償還方法 5年(満期一括償還)

1 1 新型コロナウイルス感染症の影響による 経営状況を踏まえた課題の認識

- ・ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、バス・地下鉄の乗車人員が大幅に減少し、両事業ともに運輸収益が著しく減少しましたが、基本的に通常の運行を維持した結果、赤字となり非常に厳しい経営状況となりました。
- ・ 厳しい経営状況の中で、深夜バス及び最終バスの延長の休止、東山線の金曜日及び休前日の終電延長の運行の休止などの経費節減を行ったほか、運輸収益の減収対策として、バス事業では地域巡回路線等維持補助金の増額、地下鉄事業では特別減収対策企業債を発行しました。
- ・ 加えて、テレワークなど「新しい生活様式」の実践による利用実態や動向の変化等を把握するため、令和3年度予算にバス・地下鉄の利用実態に関する調査費を計上しました。
- ・ 調査の結果や利用状況を踏まえ、新型コロナウイルス感染症の影響による事業環境の変化に対応していく必要があると認識しています。